



平成26年5月22日
海上保安庁

西之島の火山活動の状況(5月21日観測)

5月21日、羽田航空基地所属航空機(MA722 みずなぎ)により、西之島の火山活動の観測を実施した。

1. 噴火の状況

北側の火口からは、白色の噴煙が大量に噴出していた。北側の火口と南側の火口の間
に新たな火口が認められ、青白色の噴煙が連続的に噴出するとともに、赤熱した溶岩片の
噴出を繰り返していた。

南側の火口では噴煙や溶岩片等の噴出は認められなかった。

なお、溶岩流は地表では確認できないが、地下を通っていると思われ、その付近では地
表面が特に高温になっている。

西之島の火山活動は引き続き活発で今後も噴火のおそれがあることから、付近航行船
舶へは、引き続き航行警報により注意を呼びかけている。

2. 新たに形成された陸地の状況

流出した溶岩によって新たに形成された陸地は、4月15日と比較して東、南、西方向に
拡大していた。

なお、同乗した東京工業大学火山流体研究センターの野上教授からは、「南側の火口での
噴火活動は認められなかったものの、新たな火口には赤熱した溶岩が認められ、噴火も繰り
返しており、マグマの供給は継続しているものと考えられる。」とのコメントが得られた。

※5月21日時点での形状(暫定値)

- ・東西:約 1,300 m (4月15日時点 東西:約 1,150 m)
- ・南北:約 1,050 m (4月15日時点 南北:約 950 m)
- ・面積:約 0.86 平方 km、東京ドームの約 18 倍
噴火前の西之島の約 4 倍
平成25年11月21日時点の約 86 倍に相当
(4月15日時点 約 0.75 平方 km、東京ドームの約 16 倍)

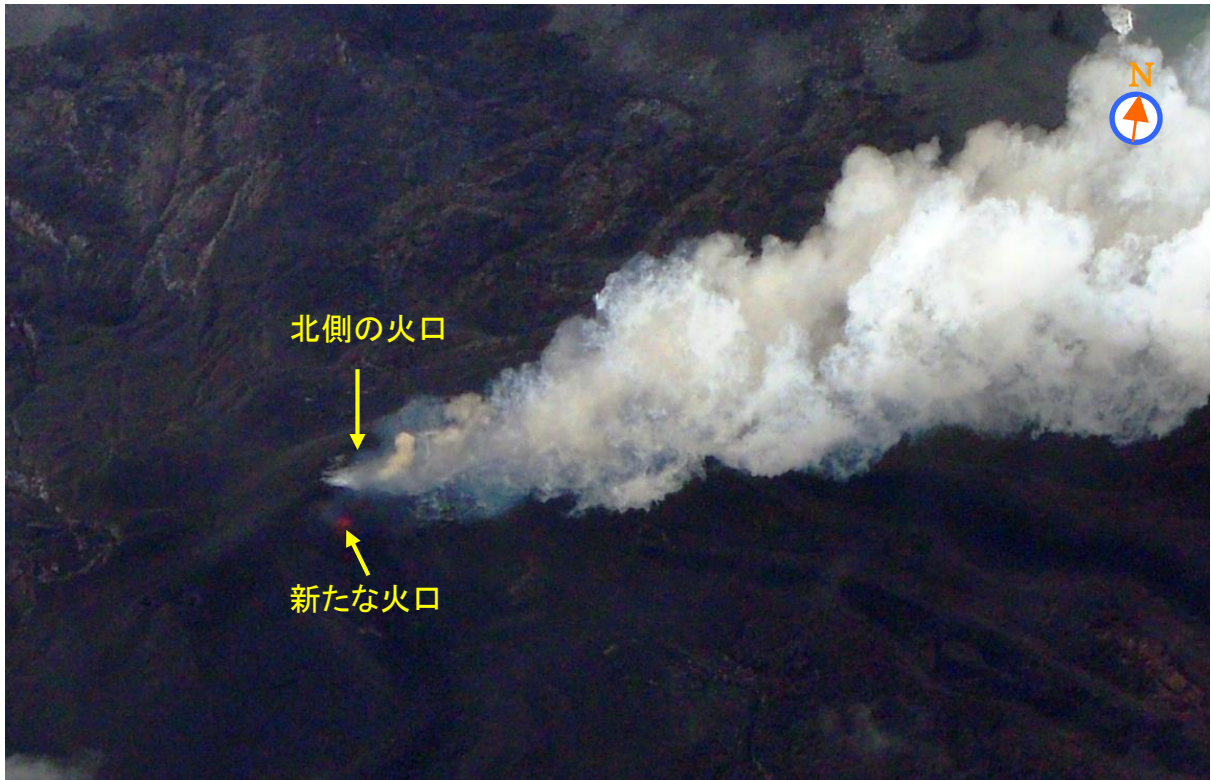


図1 北側の火口から大量の白色の噴煙が噴出している。新たな火口では青白色の噴煙を連続的に噴出し、赤熱した溶岩片の噴出を繰り返している。(5月21日撮影)

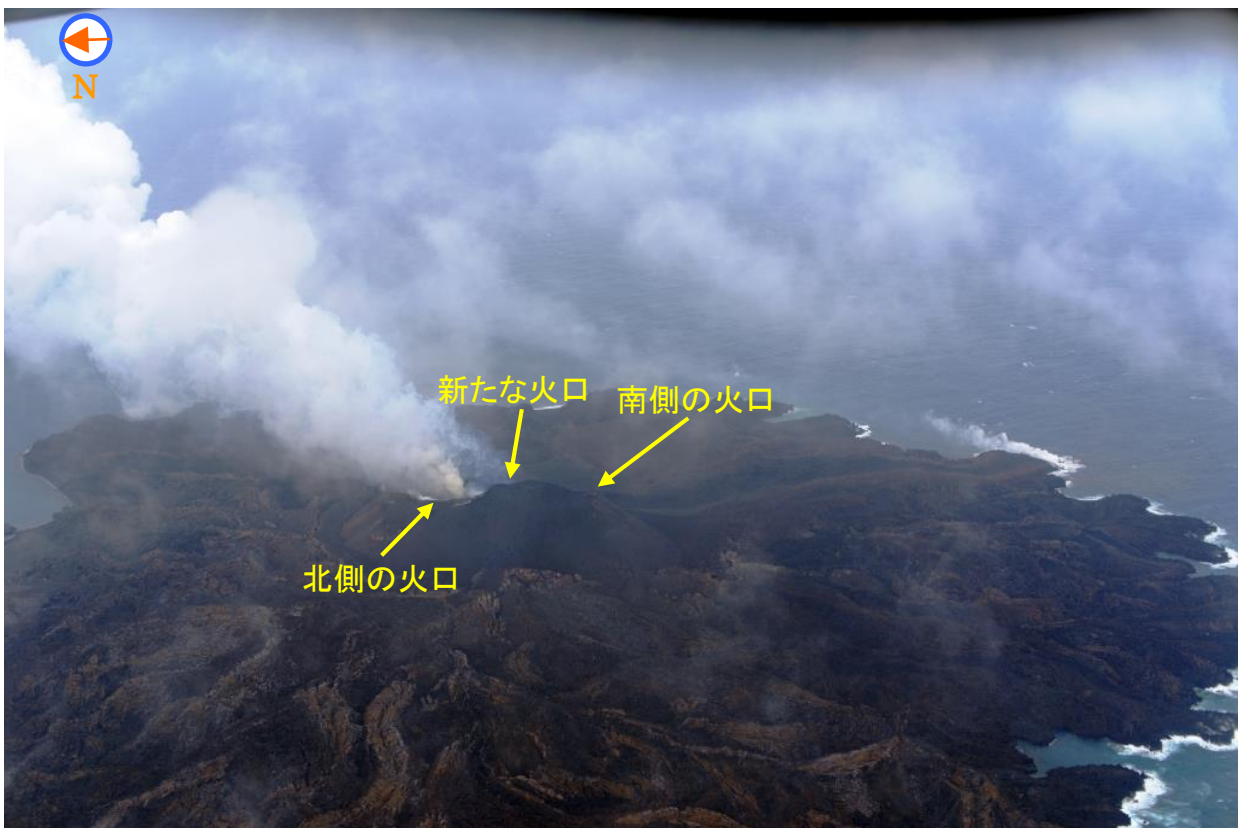


図2 北側の火口から大量の白色の噴煙が噴出している。(5月21日撮影)

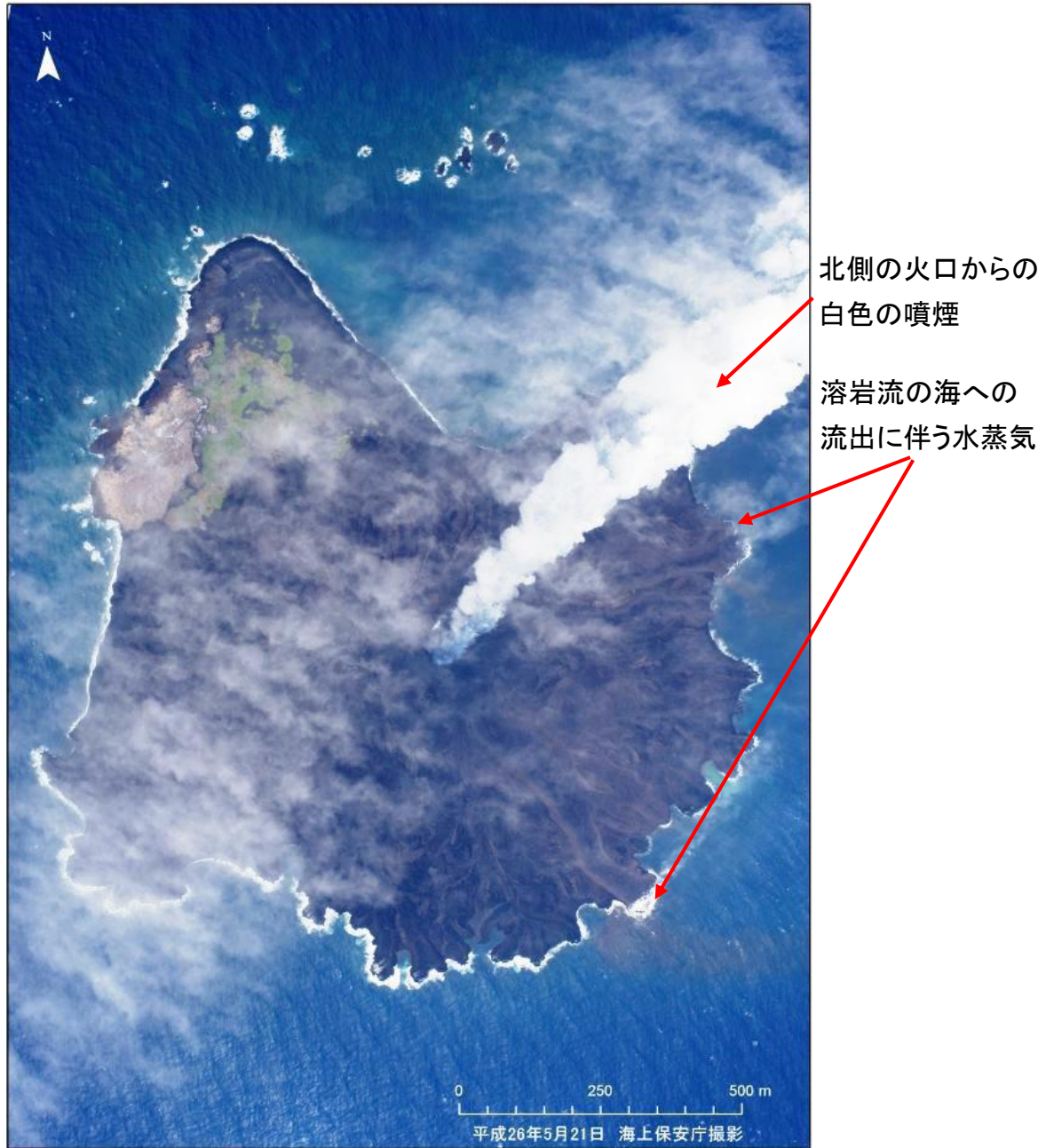


図3 西之島の全景写真(5月21日撮影)

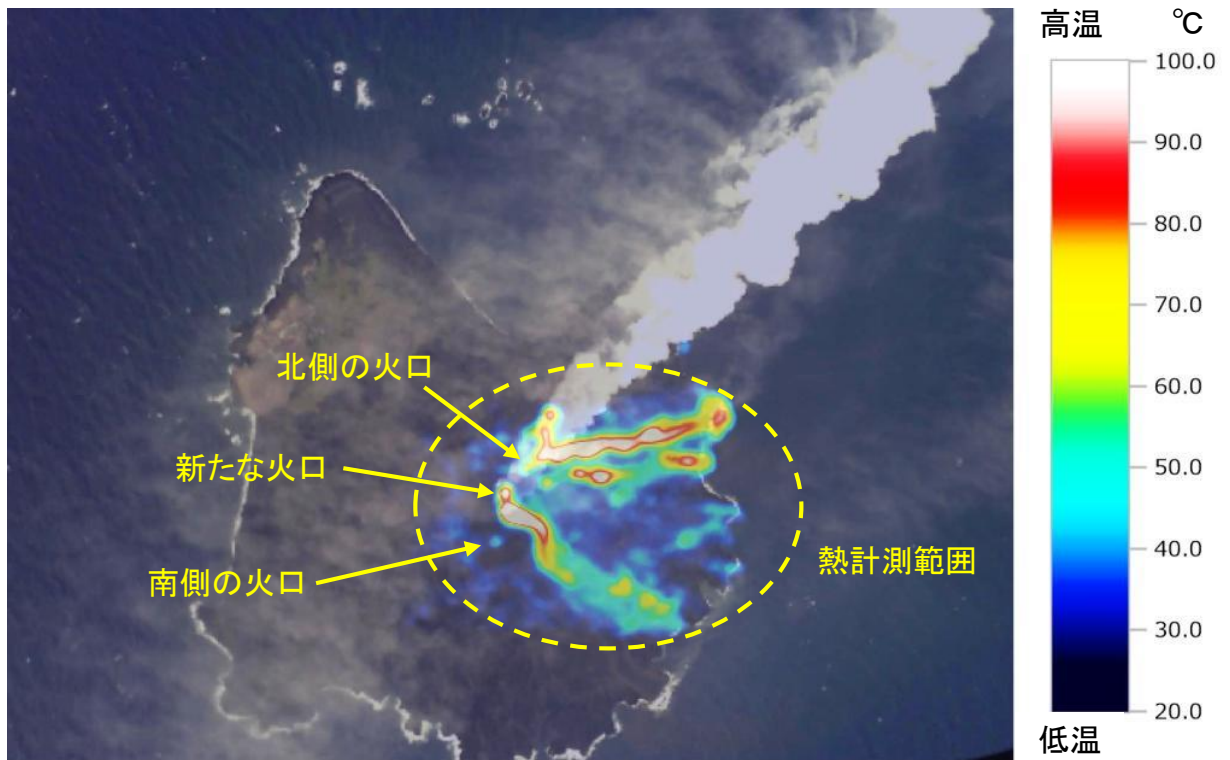


図4 熱画像の解析結果(西側は雲のため計測できず)

北側の火口、新たな火口、溶岩流の流路の地表面では、100°Cを超える高温部分が認められる。その周辺も全体的に高温になっている。計測範囲外にも、高温の領域が広がっている可能性がある。(5月21日撮影)

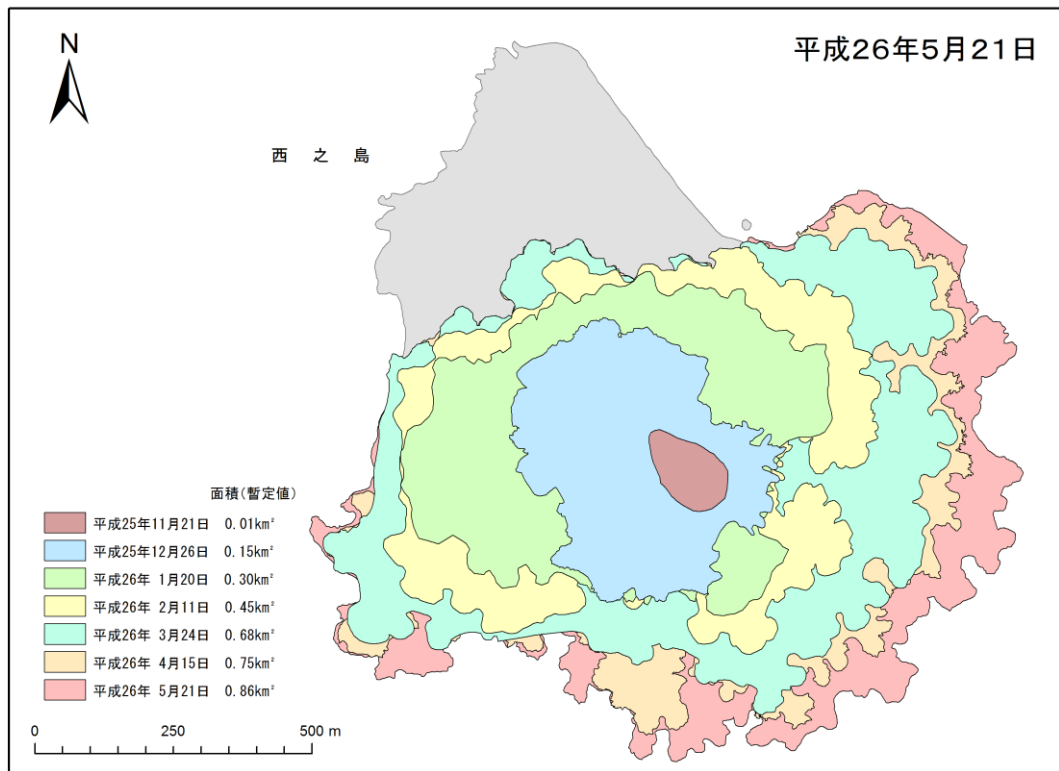


図5 新たに形成された陸地部分の形状変化の様子